



のびのび いきいき 生涯学習

生涯学習グループの紹介

現在、都留市内において各種団体に所属し、活動している学習グループや自主的に学習しているグループを紹介します。

『趣味の王者』切手収集【都留郵趣会】

一枚の小さな切手には、その国の文化、芸術、風土などが描かれているので、切手を集めることによって多くの知識と夢と、その国の現在の姿を知ることが出来ます。また、切手収集は、年齢とか、資産にかかわらず、個人の努力と財力(小遣い)によって趣味の範囲を決めることができますので、古くから大勢の人が集めていたので「切手収集は趣味の王者」と広くいわれています。

昭和三十八年六月二十七日に奥隆行氏、宮沢重氏の元郵便局長、現会長宮井寛二氏が発起人となって「都留郵趣会」が発足しました。

同年七月には初めて「第十三回富士吉田市制祭郵便切手展」に参加引き続いて高尾町の山本書店、横町のオリンピアで最初の切手展を開催しました。昭和三十九年四月には市文化協会に加入し、以来、同協会の主催する文化祭には毎回参加していますので、協会加入団体のなかでは歴史の古い団体です。

昭和三十九年代前半までは全国的に切手ブームが続いていましたので、新しい切手が発行されると郵便局の前に長い行列が見られ、切手の入手には苦労したことを覚えています。しかし、東京オリンピックを契機に日本切手の発行枚数が非常に多くなり、切手ブームは下火になりました。発足当時は、四十名を超えた会員も次第に減少し、現在は十数名の成人のみとなりましたが、少数精鋭で熱心に活動を続けております。

「都留郵趣会」では現在、市文化祭への参加以外に独自の事業として、次のことをしております。

- ・新発行の日本切手を東京中央郵便局より一括購入して会員に配布
- ・郵趣用品、初日カバーなどの共同購入
- ・郵政省発行のリーフレット(新切手の紹介印刷物)を利用して初日カバーを作成して委員に配布ほか

市内には、一人で切手収集を楽しんでいる方が大勢いると思われるので、多くの人に会員になっていただきたいと思えます。これから切手を集めてみようとする方には、美しい日本の切手を分譲することが出来ますのでご相談ください。

問合せ

会長 宮井 寛二 ☎(43) 3150
 副会長 奥脇 光弘 ☎(43) 2359
 事務局 渡辺 一郎 ☎(43) 5407

生涯学習一口メモ

生涯学習社会における学習目的とは

今の社会には、三分の知識と七分の人間性が求められています。知識を求めて博学になる、音楽を奏で聴く、あるいは読書によって教養を深める、絵画や書を習うことによりその技能の向上を図ること、などによって生きがいを感じることは、生涯学習における目的の一つです。

学習の成果については、個人の能力によって差異があるのは当然で、生涯学習社会では、知識や技能の優劣を競うのではなく、その学習歴の厚みを評価の対象としています。

学習の目的は、知識の深さや技能の優劣も必要とされますが、市民が学習することにより、人間的に心を拓いていくことにあります。

絵画や写真の習得によって自然の美しさや生命の尊厳を、書に携わることによって、心の平安や豊かさを感じるなど学習によって人間そのものに変化を生ずることです。

今日の課題とされている自然環境保護、ごみ減量化、青少年問題など、学習することによって、自分たちのこととして真剣に考え、小さなことからでも行動をしていく。

これこそ市民の自主的、参画型な考えであり、市民一人ひとりの変革こそが「まち」を変えていくものです。

だれかに、強制されて行動するのでなく、学習した結果として拓かれた心(やさしさ、思いやり)と、取得した技能(学習成果)を「まち(地域)」に役立てることによって、郷土愛を育んでいくことが大切だと思います。

都留郵趣会のみなさん

